

上右/1階部分は元ガレージと住居。上左/2月1日まで開催していた大船真言展。「時間帯によって光の具合が違うので、作品の印象も変わります」と作家の大船さん。下右/正面から見ると窓がない。作品搬入用の扉は作品を見ることができるショウウィンドウに。下左/吹き抜けが素敵な3階からは、コブシが植わる中庭も臨める。4点とも大船真言展「Prism」(neutron tokyo)より。写真/表恒匡 (neutron) 2009年

## neutron tokyo

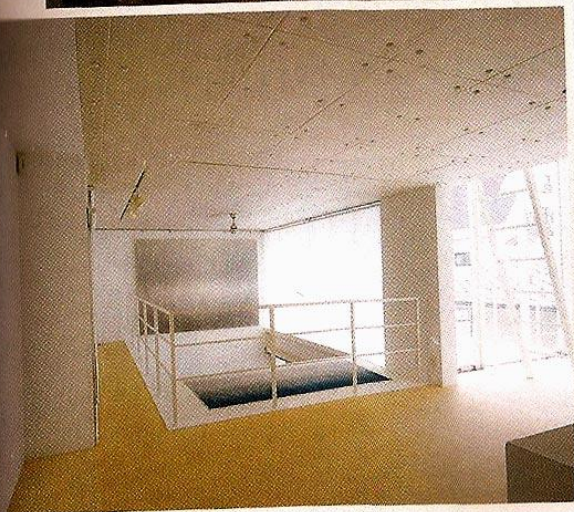
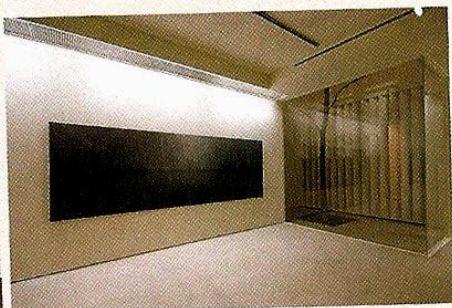
東京都港区南青山 2-17-14

tel 03-3402-3021

営業時間 11:00 ~ 19:00

定休日 月曜

<http://www.neutron-tokyo.com/>



# やさしい光で包まれる ギャラリー空間

「住とアート」がテーマ、neutron tokyo

取材・文 藤田千彩

ここ数年、自宅に現代美術作品を飾る人が多い、という。日本橋高島屋X画廊や毎年4月に開かれるアートフェア東京など、現代美術を買う場も増えてきている。

今年1月、京都・烏丸三条にカフェギャラリーを展開する「neutron (ニュートロン)」が、「住とアート」をテーマにしたギャラリーを東京・南青山にオープンした。スペースはもともとF・O・B Home の設計による、白を基調とした自然光が入り込む3階建の一軒家。それを、すわ製作所の真田大輔さんがリノベーションした。「湿気がひどかった1階部分を中心に、空調設備にはこだわりました。美術

館レベルの温湿度管理が可能です。外からの光は活かしていますが、ダクトレール付けの照明で光の演出もできます。2・3階の造作は、本来の住環境を残したかったのでそのままに。作品のためだけにあるギャラリーではなく、人の住む環境に寄りそうギャラリーでありたい」と代表取締役の石橋圭吾さん。

2・3階に置かれたソファや椅子はまるで友人の家遊びに来たかのように、ゆっくりと作品を鑑賞、購入することができる。「アートを身近に感じてほしい」と石橋さんが言うように、魅力ある同時代のアートを求めて、心地よいスペースにぜひ足を運んで欲しい。